砂名の ベトナムに乾杯

第25回　テトギフトがつなぐ人の輪

昨年はベトナムにとっても大変な一年だったが、今年のテト(ベトナムの旧正月)は、せめてコロナの影響が影を落とすことがないようにと願うばかりである。

ベトナムでは10月頃から翌春のテトに向けて、「ギフト商戦」で賑わう。ベトナム人のクライアントや顧客にギフトをお渡しする日系企業さんも多い。中でも「日本酒」はもらって嬉しいギフトランキングの常時上位に入っており、当店をご利用くださるお客様も年々増えている。関税その他で日本価格の2.5倍にもなる日本酒は、まだまだベトナムの人たちが日頃飲むには高嶺の花である。でももらうのは嬉しい、大歓迎なのだ。「お世話になったあの方に」、個人でのご利用はもちろんのこと、100本、200本と発注される企業様もいらっしゃる。

お嬢様から日本酒のギフトセットをもらって、喜ぶお父様。

一方、日本ではどうだろうか？　昭和の時代にはお歳暮商戦が盛んだったが、今ではこの種の慣例が何かとよろしくないとされるむきもあるようだ。ベトナムの日系企業も例にもれず、「贈らない、もらわない」を徹底していらっしゃるところもあるようだ。

昨年10月。ホーチミン市は社会的隔離が段階的に解除され、少しは明るい兆しが見えたかに思えたが、経費削減のおり、これを機にテトギフトを廃止されたところもあると聞く。コロナ禍でどこもみな一様に苦しいわけではなく、特需で繁忙だった企業も少なからずある。しかし隔離明け早々「テトギフト、いかがですか？」とお声を掛けさせていただくのもいかがなものかと思い、しばらく様子見で、告知を控えさせていただいた。お客様が心から喜んでくださるタイミングにお届けできることが一番である。今回はダメでも、2022年度は早くから準備させていただこう。と半ば諦めていたら、前年より多い発注をいただいた。

さて、今回特に問題になったのが、ホーチミンの当店からハノイへのお届けであった。日本なら、日本酒はクール宅急便で、グラスは「割れ物注意」と明記すれば翌日か、掛かっても一週間以内に無事、届けてくれる。破損した場合には保険もある。

その点ベトナムは物流がまだまだこれからである。ローカルの配送業者や郵便局に問合せをすると、日本酒はとにかく取り扱わない、あるいは木箱で頑丈に梱包することが条件だと告げられた。グラスの配送については、郵便局だと既定の発泡スチロールの箱を市場で購入し、投げても落としても踏んづけても割れないぐらいに梱包しないとならない。昨年の春、頒布会の際にもグラスをお届けした。日本なら十分過ぎるほどの梱包で郵便局に持ち込んだのだが、中を開けられてやり直しを命じられた。日本も40年ほど前は、今ほど便利かつ安心・安全ではなく、荷物の破損や紛失に関するエピソードには枚挙に暇がなかった。

さて、一昨年当店にお見えになったベトナム人女性のお客様が、テトに故郷へ帰るので、父親に当店の日本酒ギフトセットをプレゼントしたいとご購入された。その後、娘さんから日本酒をもらって満面の笑みのお父様の写真が送られて来た。こういう微笑ましい光景を拝見すると、このお仕事をしていて本当に良かったと思う。この号が発刊されるのはテト前である。どうしようか迷っておられる方、まだ間に合います。ぜひ「日本酒のテトギフト」を！

月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯！】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。

p34_砂名のベトナムに乾杯_25.indd　34　2021/12/13　9:08